

しづさわえいち なかんち かぞく 渋沢栄一「中の家」の家族たち

父 市郎右衛門 **母** えい



父の市郎右衛門は、親戚の「東の家」から婿入りしました。藍玉づくりや養蚕など一生懸命働いて、「中の家」を裕福にしました。栄一の母、えいは、愛情にあふれた人柄でした。

妹 てい **ていの夫** 市郎

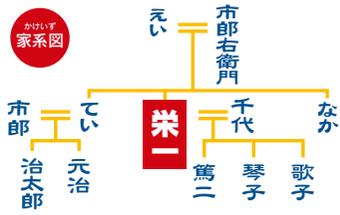


ていは明るく朗らかでユーモアにあふれる人で、栄一の代わりに、夫の市郎とともに「中の家」を守りました。市郎は、親戚の須永家から婿入りし、勤勉誠実で信望も厚く、八基村長、埼玉県会議員を歴任しました。

甥っ子 元治



市郎、ていの長男。東京帝国大学の工学博士として、日本の電気工学の進展に大きく貢献しました。また、名古屋帝国大学の初代総長を務めました。明治22年(1889年)、12歳で進学のため上京するまで、「中の家」で過ごし、上京後も学校の休みなどには必ず帰郷し、家族を手伝いました。



妻 千代

隣の下手計村の尾高惇忠の妹。17歳のときに栄一と結婚し、夫の留守宅をしっかりと守り、明治2年(1869年)まで「中の家」で過ごしました。



娘 歌子

栄一、千代の長女。明治2年(1869年)まで、「中の家」で過ごしました。また、栄一の帰郷に同行してたびたび「中の家」を訪れました。後に「中の家」の近くにある八基小学校の校歌を作詞しました。



甥っ子 治太郎

市郎、ていの次男。兄の元治が郷里を離れたため、代わりに「中の家」を守りました。八基村会議員、埼玉県会議員、八基村長等を歴任。産業、経済、政治、教育の多方面で郷土の発展に貢献しました。



小中学生のためのパンフレット

きゆう しづ さわ てい なかんち 旧渋沢邸「中の家」



郷土の偉人 渋沢栄一



なんで「中の家(なかんち)」っていうの？

「中の家」とは？

大きな主屋は、明治28年(1895年)に渋沢栄一の妹夫婦が建てた家で、1階の奥には、栄一が帰ってきたときに滞在した部屋(上座敷)が今も残されています。

この家のまわりにはたくさんの渋沢家の家があり、それらのまなかにあったことから「中の家」と呼ばれています。「中の家」の人は代々農業をしていました。栄一が暮らしていたころは、農業のほかにも藍玉づくりや養蚕をして、とても裕福でした。

MEMO

来館記念 年 月 日

きゆうしづ さわ てい なかんち 旧渋沢邸「中の家」

住所 埼玉県深谷市血洗島247番地1
休館日 年末年始(12月29日~1月3日)
開館時間 9:00~17:00(入場16:30まで)
入館料 無料
お問合せ 渋沢栄一記念館
電話 048-587-1100



スタンプ



しぶさわ えいいち

渋沢栄一ってどんなひと？

天保11年(1840年)、今の深谷市血洗島に父・市郎右衛門、母・えいの子として生まれました。幼いころから家業の養蚕や藍玉づくりを手伝い、はじめは父から、また、7歳ころにはいとこの尾高惇忠から論語など学問を学びました。

23歳の時、「中の家」を離れ京の都に出ると、その実力を認められて、徳川慶喜に武士として仕えることになります。その後、慶喜が将軍になると、慶喜の弟・昭武に随行してパリの万国博覧会を見学し、先進諸国の社会がどのようにになっているのかを広く学ぶことができました。



日本に帰ってきた栄一は、明治政府からお願いされて、国のために仕事をすることになります。国の仕事を辞めた後は、日本で初めての銀行「第一国立銀行」など、約500の会社や銀行の設立などに関わり、日本を豊かな国にしようとしました。また、約600の学校や病院、養護施設を作り、多くの人たちを助けた。

60歳をすぎた栄一は、忙しくても諏訪神社のお祭りにあわせてふるさとに帰ってきて、獅子舞を見ることを楽しみました。

「血洗島」の由来

「〇〇島」という地名は深谷市内でも多くみられ、利根川の氾濫によって形成された自然堤防の上や、島のようにわずかに高まった土地の名前に付けられています。

「血洗」の由来は、荒地を表す「地荒れ」や、常に川の水に洗われる土地を表す「地洗れ」が変化したともいわれています。渋沢栄一は、赤城の山霊が他の山霊と闘って片腕を怪我した際、その傷口をこの地で洗ったため「血洗島」という名になったという伝説を語っています。このように定説が無く諸説があり、その由来については、はっきりしたことはわかっていません。



獅子舞

血洗島獅子舞

諏訪神社の祭礼(秋季大祭)に奉納されます。元龜2年(1571年)にはじまると伝わり、雄獅子・雌獅子・法眼の3頭が一組となって、笛のお囃子のもとで舞います。渋沢栄一も幼少より雄獅子を舞っていました。

旧渋沢邸「中の家」の主屋

栄一ゆかりの空間を体験してみよう!



2階

元治の部屋



渋沢栄一アンドロイド・シアター

くつろぐ80歳代の渋沢栄一アンドロイドが、映像とともに思い出を語ります。



1階



上座敷

栄一が帰郷したときに滞在しました。栄一のために、妹夫婦が特に念入りに作らせた部屋です。

カマド跡と刻印煉瓦

地下には煉瓦製のカマド跡があり、煉瓦には、栄一が中心となって設立した日本煉瓦製造株式会社が作られたことがわかる刻印がありました。